

加入世帯数が3倍に—— 新しい自治会に生まれ変わらせた、そのココロエ。

今月の広報は、自治会加入世帯を約90世帯から220世帯以上に増やした森自治会を特集。3年間の活動をインタビューしました。

「3年前に地区の組長になったとき、地域の実態を知りました。まさかこんな課題を抱えていたとは。どうにかしないと地域は廃れてしまふ。そう強く感じましたね」
新しく森自治会の会長になった黒川重男^{しげお}さんは当時を振り返る。

森自治会は南方東地区の旧街道沿いにある自治会だ。昔は田畑が広がる田園地域だったが、今は宅地開発が進み、多くの住民が住む地域になっている。

「元からの住民は高齢化しています。これは全国どの地域でも課題になっているのでないでしょうか。それに自治会への加入率も低い。森組も新しく来た人が元の住民の3倍以上いるにも関わらず加入率が3割ほどでした。地域としての一体性もなく財政的にも将来がないと感じました。南海トラフ地震の危険性もあるなかで、何人が住んでいるかも分からないと自助共助の活動ができません。加入者がいないと当然自治会の財源は少なく、よくしていこうとしてもお金がないと何も

「森組を、 発展的に解散しよう」 地域を動かした言葉の力。

森組自治会問題特別委員会の活動記録
●委員会20回・懇談会4回開催、自治会だより5回発行

開催月	活動
臨時総会 H31.2	特別委員会を設置
委員会開催 H31.3~R1.10	課題分析とアンケートの検討
アンケート実施 R1.10	自治会の在り方について
委員会開催 R1.11	アンケート結果と対応検討
自治会だより R1.12	アンケート結果を共有
委員会開催 R1.12~R2.7	新自治会の規約、懇談会検討
自治会だより R2.7	話し合いの途中経過を共有
懇談会開催 R2.7~8	新自治会の概要説明と意見交換
自治会だより R2.8	地域づくり懇談会の報告
臨時総会 R2.10	新自治会の設立、規約などの説明
加入の案内 R2.11~	地域内全世帯に加入案内
自治会だより R2.11、R3.1	自治会設立の案内と加入状況などの情報共有
委員会開催 R3.1~4	令和3年度の事業を決定

できない。防災に対する備えだつてできませんでした」。

黒川さんは地域の未来を危惧し、自分が組長のときに自治会費を年間2,000円から4,000円に値上げ。しかし、加入世帯がいなくて根本的な解決には至らなかった。「このままでは持たない。この先10年後は加入世帯が今より半分になっているかも」。そこで森組自治会問題特別委員会を発足し、3年後を見据えて自治会問題に取り組みはじめた。

して活動した柳澤^{しげお}さんは当時をこう振り返る。「これまで自治会加入の問題は役員や組長同士で話していたんです。でもどうすればいいか、先頭に立ってやってくれる人がいないので、悩んで終わるだけでした」。

委員会が発足すると、早速住民の意見を聞きだそうとアンケートを実施。結果を集計するといろいろな問題が浮き彫りになった。委員会では、さらに生の声を聞き出そうと「地域づくり懇談会」を4回開催。「なぜ入らないのか。

ずっと課題だった。
向き合えたのは、
同じ想いを持つ
仲間が集まったから。



柳澤 恵子 さん
やなぎさわ・けいこ
MORI JICHIKAI
BRAND NEW
ASSOCIATION

昭和63年から森地区に引っ越し。専業主婦の傍ら、地区の役員などを務めてきた。趣味はガーデニング。



1_話し合いが行われた森自治会の集会所。/2_近くの田畑では麦の栽培が行われている。/3_団地内には地区住民に農地を開放しているところも。住民同士の交流が図られている。



黒川 重男 さん
くろかわ・しげお
MORI JICHIKAI
BRAND NEW
ASSOCIATION

30年程前に森地区へ移り住む。愛媛県庁退職後、3年前に森組の組長を務める。趣味はゴルフとヨット。

Interview



MORI JICHIKAI BRAND NEW ASSOCIATION 萩原 貴美子 さん はぎわら・きみこ

森地区に住み出して44年くらいになります。その頃は、割と地域の中で生活しているという実感がありましたが、宅地開発が進むにつれて近所との付き合いが少なくなったなと感じていました。『どこもそうだし、まあいいか』という気持ちもありましたね。

でも、いつ災害が起こるかわからないこの時代。シニア世代が取り残されないように、「このままじゃいけない」と思って、今の孫の世代に「この地域に住んで良かったな」と思ってもらえる地域をつくろうと考える人たちがいます。そんな人たちと一緒にできて良かったと思います。一軒一軒歩いて話をし、互いに理解しあえたという過程も大事にしてきたので、それも今後の自信になるのではないかと思います。

払い、役員にもなる、奉仕活動にも参加する。自治会に入っても全くメリットがない状況でした。委員会は、生活に密接に関わるごみ問題だからこそ、自治会加入へつなげたいと考えた。「もちろんごみを捨てることは当然の権利です。でもごみステーションの維持管理は自治会。なので加入すれば無料で使える、会員でなければ使用料をいただくことにしました。全てご納得はいただけなかったかもしませんが、結果にはつながったかなと思っています」。

Interview



MORI JICHIKAI BRAND NEW ASSOCIATION 高須賀 喜代 さん たかすか・きよ

災害はもちろん、何かあったときに近所に誰がいるか分からないと助け合えません。新しい世帯も増えて、ごみステーションも考えないといけません。まずは身近な問題を一つひとつクリアして、「森組に入って良かったな」と思ってもらえる自治会にしたいです。

役員が嫌だから ― 自治会の在り方を根本から見直す

なぜ入っていたのにやめたのか」の質問に対して「役員の負担」という理由が出てきた。「役員は順番で回ってきた。役になった人が『もうやりたくない』といって組自体を抜けてしまう。それでは何のための自治会なのか。これはもう根本から変えてしまわないと」。そう考えた委員会では、役員の人選を公募に変更。役員の任期も2年に伸ばして、問題改善を進めやすくした。「何もわからず役員をして、1年経ったら次の人に交代。それでは問題の先送り

になってしまふ。運営には継続性が必要です」と黒川さんは話す。「それに嫌々役員をしてもその地域は良くなるらない。共働き家庭も多く、若い世代は時間も少ない。ある程度時間があり、やる気のある人に役員になってもらいたかった」。

東温市の自治会加入世帯数（加入率） ※ 4/1 時点

	重信	川内	全体
R 3	6,671 (63.1%)	3,255 (67.5%)	9,926 (64.5%)
R 2	6,743 (64.7%)	3,181 (66.7%)	9,924 (65.3%)
R 1	6,707 (65.2%)	3,226 (68.4%)	9,933 (66.2%)
H30	6,690 (66.0%)	3,182 (67.8%)	9,872 (66.6%)
H29	6,758 (67.8%)	3,277 (69.8%)	10,035 (68.4%)
H28	6,622 (66.7%)	3,318 (71.0%)	9,940 (68.1%)
H27	6,665 (67.5%)	3,304 (71.2%)	9,969 (68.6%)

Interview



MORI JICHIKAI BRAND NEW ASSOCIATION 乃万 泰志 さん のま・やすし

阪神淡路大震災のとき、松山で教師をしていました。関西で被災した小学校3年生が湯築小学校にきました。すると地域の皆さんが動いて、一夜にしてランドセルや制服を集めて、次の日にはちゃんと登校してきたんです。転校の手続きも市役所に近所の人を連れて行って。それを見たとき、「地域の力はものすごいな」と感じました。いろんな年代層の人が交流する中で、命をお互いに大切にしようと思いを深めてもらう。災害が起こったときに森自治会が、地域の住民が、一人でも多く行動できる組織になってほしいと願っています。

変わった自治会を実感したい。

次の世代に 引き継ぐため

Interview



高田 誠司 さん
たかだ・せいじ

MORI JICHIKAI
BRAND NEW
ASSOCIATION

私の住む団地は森自治会の中でも新しい団地です。地元のことを知らない人が集まっています。これから作られていく場所だから、最初に自分たちでベースになるルールを作ろうと交流を重ねてきました。ここで一つのコロニーができたらいいなと思っていた。そんな折に森自治会の話がありました。「地域の人たちと交流できる、地域を知れる」とうれしかったですね。今回、多くの人が入会したことでまた新しいことができると思います。

問題が生じてても、それを改善すればいい。これだけ自治会加入が減っているのに何もしないのもどうかと思ったので、やってよかったです。

始まった「森自治会」としての新たな船出。今年度の役員は委員会メンバーの中から選ばれた。「実際にはスタートしたばかり。これからどうなるか分かりません。まず着手したいのはごみ問題です。ごみステーションを綺麗に新調したい。それに蛍光灯や防犯灯をLEDに交換する。変わったところを実感していききたいです。責任重大ですけれどね」。森自治会は下部組織として複数の「班」に分かれている。新しく班長になった人も地区役員というプレッシャーもなく気が楽だそう。「でもこれだけ世帯数が

増えると役員5人はしんどいな」と黒川さんは笑う。これからの課題は担い手づくり。「引越してきた人もどんどん役員に入ってもらって融和を図りたい。次の世代が入りやすい自治会になるために、楽しい雰囲気を全面に出したいです。催しのときには顔をあわせて会話を増やします。普段からの付き合いが大事だと思っています。そうじゃないと地域の一体性も出ないかな。役員自体も新旧の住民が入り混じっています。普段から声を掛け合い、信頼関係を作っていきたいですね」。



住民アンケートから出た意見や4回の懇談会開催で見えてきた地域の課題。特別委員会で自治会だよりをこれまで5回発行し、話し合いの途中経過を共有していった。「自治会だよりを配るのも委員11人で戸別訪問を繰り返しました。顔を向き合わせることで、自治会で今何を話しているのかを皆さんに伝えられたんです。結果としてほぼ全世帯、98%ほどの住民が森自治会に加入した。「森組は昔からある自治会です。古い世帯は60世帯程度でしょうか。対して新しい世帯

は200戸あります。少し残念な話ですが、過去に加入していた人は「自治会に入っても『よそものは黙っとれ』と昔からの人に言われる。それなら自治会なんて入りたくない」と声を揃えて言います。委員会ですら訪ねていくと、本当に言われることもありましたが、排他的な雰囲気はありません。そんな状況だから「森組を変えます」ではインパクトが弱かった。「森組を新しくします。名前も変えます」とインパクトを強くして皆さんが興味を持ってもらえるようにしました。

Interview



MORI JICHIKAI
BRAND NEW
ASSOCIATION

丹 豊子 さん
たん・とよこ

この地域に住み出して45年くらいになるでしょうか。ところどころ皆さんに自治会だよりを配っていました。加入していない人も「どうなるんだろう」と期待と興味を持ってくれたんだと思います。何をしているかわからない状態より、情報を共有できたことが良かったかなと思います。元々、自治会に加入してやめた人も戻ってくれました。

でも、これで良かったのではなくて、これからだと思います。自分たちの子どもが地域を担う時代。次につなげていくために、いい土台づくりができたと感じます。「お互いさま」の気持ちで、気楽に生活できる地域づくりができればいいなと思います。